

「JENESYS2018」香港・澳門高校生訪日団 参加者の感想（抜粋）

◆香港団

○日本科学未来館の見学では、香港の科学館や宇宙館とは異なる展示を沢山目にした。香港の科学館の装置は、ほとんどが幾つかの基本原則に基づいたものだ。例えば光学反射と屈折、ニュートンの法則などだ。でも日本科学未来館の施設はよりハイテクノロジーで、現代の科学技術の進歩の速さをより実感できるものだった。中でも一番印象的だったのは ASIMO のショーだ。元々ロボットに関して多少の知識はあったし、ASIMO のことも聞いたことはあった。でも日本で直に ASIMO を見て、歌が聴けるとは思っていなかった。私は日本が科学技術の進歩と同時に周到な環境保護への配慮も望んでいることを知った。

そして、ホームステイでは、日本の普通の人々の生活を体験することができた。Hさんは私たちを山登りに連れて行ってくれたり、竹笛の作り方を教えてくれたりした。一泊二日、大自然に帰り、すべての心配事を忘れてその恵みを享受した。日本人の生活は香港より明らかにリラックスしたものだった。私はまた、日本の伝統建築に対しても知識を深めた。例えば、床の間や畳、庭… 香港は土地が狭く人が多いため、家にこれらを配置するスペースはない。本当に二度とない経験だった。

○これまで日本に行ったことがなかったので、私は日本に対して偏ったイメージを抱いて今回の交流に参加した。優雅で古色に満ちた、複雑な礼儀作法を有する国。そして、この交流の中で、文化や生活、科学技術、歴史といった沢山の日本を知った。その姿は一つだけではなかった。私たちは多くの名所を訪れたが、どこも素晴らしかった。自然は美しく、清らかで長閑で、建物は壮大だった。一カ所見学する度に、私は自分の心が落ち着いていくのを感じた。香港での生活は慌ただしく、人がひしめき合う都会では、忙しくて息もつかない。それが、今回の日本の旅で私は本当に一息つけた。清らかに澄んだ空気を吸い、心がすっかり落ち着いた。そして、見学では、建物の歴史と由来についても理解した。頭の中で曖昧だった日本が神秘的ベールを脱いだ。見学の他に、ホームステイでも沢山の収穫があった。私たちは日本人の家庭に入り、一緒に食事の準備をし、交流し働いた。その中で、私は日本人の生活習慣や彼らの考え方を知った。言葉は通じなかったが、交流の妨げにはならなかった。この貴重な経験は私の記憶に永遠に残るだろう。最も深く印象に残っている体験は、一番楽しみにしていたプログラム、学校交流だ。日本の高校生と一緒に授業を受け、互いに理解を深めた。交流はすべて順調というわけではなかったが、英語やジェスチャーで想いを伝えることができた。彼らはフレンドリーで親切で、勉強にも熱心だった。そのすべてが私の心に徐々に変化をもたらした。学びの道における大きな決心をさせたのだ。彼らの一生懸命さ、大雨が降ってきてもパフォーマンスをやり続ける、その諦めない精神を、学びたいと思った。たった一日という短い時間だったが、彼らと確かな友情の基礎を築いた。今後も互いに助け合って未来へ進み、互いの国に対する理解を更に深め合っていけると思う。

○この九日間で、私は日本の科学技術や防災面での発展や、歴史文明、宗教について学んだ。また、日本の風俗文化について体験することもできた。例えば、ホームステイでは日本の一般家庭の日常生活を見ることができたし、沢山の日本の友達を作ることができた。今回の交流団で私の人間関係が広がっただけでなく、視野も広がり見聞も深まった。そして、日本人の人々からも、人として物事を行う際のあるべき態度について、多くの事を学んだ。今回のプログラムの中で得た事は、普通のツアーに参加して得られる事とは全く違うと思う。絶対に一生忘れられない経験である。

日本人からは、仕事や生活に対する熱意と真面目さを学んだ。いかなる仕事に対しても、周到で綿密に計画を立て、最大の力で最高にやり遂げる。この精神は十分に学ぶに値すると思う。今、そして将来においても、何事を行うにもいい加減ではなく、日本人のように全力で完璧に行うべきだと気付かせてくれた。これは単に他人への戒めではなく、同時に自分に対する戒めだ。

今回のプログラムの中で最も印象深かったのは、日本の環境保護意識だ。日本はこれまでずっと世界に向けてその清潔さと環境保護の一面を示してきた。これはホテルの中でさえ目にする事ができた。私が宿泊したホテルの部屋には複数のごみ箱があり、客は自分でごみを分類し、それぞれのごみ箱に入れる必要があった。日本が単に自分たちに対して環境保護を求めているだけでなく、外国からの旅行者にも同様の環境保護意識を持ち、共に地球を守るために力を発揮して欲しいと望

んでいるのが分かった。それに引き換え香港は、度々ごみの分別回収が提唱されてはいるものの、真面目に取り組まない人が多く、ごみの分別を間違えてしまう。環境保護意識を養う上で、日本は十分に学ぶに値すると思う。香港が将来、日本のように環境保護意識の育成に力を入れ、環境保護分野で多くの改善がみられることを望む。

○まず、二日目に日本科学未来館を見学した時、日本人のイノベーションへの考えに触れた。未来館では重力で制御する車に試乗した。誰もが今ある車を如何にレベルアップするかを考えているこの時代に、日本人はこうした誰もが考えつくような問題にとらわれないばかりか、より突破口になるような問題について考えを巡らしている。この種の新しく発明された車は、速度が速いわけではないが、操作はとても簡単で、改良を重ねれば必ず市場に出せるし、突発的な交通事故を減らすことができると思う。日本人の考えている問題はイノベーションだけではなく、生活とも密接に関係している。こうした創意工夫は十分に学ぶに値する。

ホームステイでは、日本人のおもてなしを実感した。たった一日の滞在だったが、お爺さんとお婆さんは私たちが本当の孫のように扱ってくれた。そして、私と日本語で、人生の四方山話やこれまでの経歴について話し、気まずい沈黙はすぐに破られた。すべての過程で学んだことは、単に大根はどうやって引き抜き、日本料理はどのように作るかだけではない。彼らが私たちのために準備してくれたすべてを、私は感謝の心で堪能した。彼らが私たちの知らない所で手配してくれたすべてのプログラムに、私は心から感謝した。彼らは本当に一生懸命に私たちに日本の文化を理解させようとしてくれた。このような情熱は十分に学ぶに値すると思う。今後、どんな場面においても、お爺さんお婆さんのように心を込めて最善を尽くしたい。

○学校訪問では、学校サイドの手配の完璧さが見て取れた。例えば、私たちがさまざまな授業に参加させる等、短い時間の中で最大限学校生活を体験し、学生と交流できるよう準備してくれていた。また、日本の学生がとても親切でフレンドリーなことも分かった。彼らは言葉の通じない状況でも、ボディランゲージで一生懸命私たちとの意思疎通を図り、香港のさまざまな事柄について積極的に質問し、二つの地の文化の違いを理解しようとしていた。彼らのこの積極性や、異国から来た私たちに對するフレンドリーさも、新しい物事に対する好奇心も、深く印象に残った。これこそ私たち香港の学生に欠けているところだから。今後、私たちが彼らの素晴らしい態度に学べば、勉強や成長に大いにプラスになると思う。

他にも印象的だった美德は彼らの自制心だ。先生が見ている時だけ規則を守るのではなく、自然に自主的に学生としての責任を果たしていた。例えば、昼食後、日本の学生は弁当の容器を片付ける以外に、テーブルの上のご飯粒までティッシュペーパーできちんときれいにしていた。こうした小さな行動がとても印象に残っている。そして、教室の規則では、授業以外の時間のみ携帯の使用を許されているのだが、チャイムが鳴ると、全員が自然に自主的に携帯を仕舞い、45分間の授業中、全く携帯を気にする様子は無かった。この自制心を香港の学生は見習うべきだと思う。

最後にもう一つ驚いたのは、日本の家庭と大自然の密接な繋がりが。ホームステイの時、私たちが口にした農作物は、すべてお爺さんが近くの畑から採ってきたものだった。翌朝には、お爺さんは私たちが近くの野原へ散歩にも連れて行ってくれた。香港のような都会で生活する私たちにとってはすべてが初めてのことで、とても感動した。

○まず、ホームステイが一番印象的だった。私たちはホストファミリーと一緒に竹筒を作り、畑でさつま芋を掘り、お寺へ出かけて鐘を撞いた。どれもが目新しい体験だった。ホストファミリーが私欲なく私たちの世話をしてくれたことに深く感動し、そのことから人の好意は決して当たり前の事ではなく、私たちは感謝の心を持つべきだと学んだ。自身の物事への対処や価値観に新たな考え方が加わった。彼らの心にある感謝の心に学ぶべきだ。

次に、学校訪問の体験が深く印象に残った。私たちは牛久高校と北稜高校を訪問した。二つの学校は校風に大きな違いがあった。牛久高校は、学業に重点を置いた学校で、校内の学習に対する雰囲気も比較的良かった。私のバディも含め学生は全体的にやや内向的だったが、さまざまな活動の中でみんな徐々に親しくなり、積極的に発言するようになった。交流の中で、互いの学習に対する考え方をシェアした。彼らの学習態度はとても参考になった。彼らは自ら積極的に分からない事に向き合い学んでいた。決して尻込みすることなく、問題を回避したりもしない。この学習態度には

敬服した。北稜高校の情熱にも、視野を広げられた。彼らは知らない相手に対しても全く恥ずかしがる事がなかった。更に、共に過ごすことで、よりリラックスした気分させてくれた。彼らの自主性、積極性に学ぶべきだ。

○まず、学校訪問で、日本の学生の積極的で外向的な学習態度に敬服した。私がまだ戦々競々として、どう接したらよいか思案している時、彼らは初対面の私たちを満面の笑顔で迎えてくれた。言葉の壁はあったが交流の邪魔にはならなかった。授業中、彼らが先生と互いにやり取りする様子に、私はとても驚いた。香港では、学生はただ静かに席に座って、先生の講義を注意深く拝聴する。他の学生の授業時間を無駄にしないように、皆授業が終わってから先生に質問をする。それに対して、日本の学生は、何か分からないことがあると、すぐに手を挙げて大きな声で質問していた。楽しくリラックスした雰囲気、学生を授業に集中し易くしていた。そのため、授業中も日本の学生の積極的で外向的な特徴が発揮されていた。こうした特徴は、人に接する時の助けになると思うし、自信が出て、さまざまな困難を克服していく助けにもなると思う。

次に、日本人と接し、彼らの親切さや真面目さ、礼儀正しさを感じることができた。日本科学未来館を見学した時、ある災害予告システムの展示を見た。そこには、彼らがいかんして天気に関する資料を集めて分析し、次の災害の発生時期を推測するかが細かく説明されていた。この転ばぬ先の杖の心構えは、謙虚に学ぶに値すると思う。予想外の事が起こらないように、常に十分な準備をしておく必要があるのだ。他にも、ホームステイ先での、日本人の温かいもてなしと接客も、手本にする価値がある。彼らの礼儀を尽くした謙虚さに、私は恐縮し、普段の自分の人に接する態度を恥じた。自分に厳しく他人に優しく、絶えず礼儀に気を付け、自分本位にならず、他人の気持ちをないがしろにしない。これこそが、正しい生活であり、人生への姿勢だと悟った。

○今回の九日間の訪日日程は、内容が豊富で範囲も広く、沢山感動し、色々考えさせられた。学校訪問では、日本の若者の活発さと熱意を感じ、専門分野の見学では、日本人の専門性と細やかさに驚かすにはいられなかった。茨城と京都の二つの学校では、日本の「仲間」が私を歓迎してくれた。彼らは一生懸命に学校の施設を案内し、書道教室や工芸室を見せてくれた。また、香港の事情についても熱心に質問してきたので、その好奇心の強さに驚いた。校内を見学していると、会う人会う人に挨拶された。また、神社を参拝した時には、日本人が礼儀を重んじる様子を見ることができた。参拝の前には手を清め、参拝にも一々やり方があった。これが正に彼らの国民性とイメージを形作っているのだ。

これらの体験は、私が学校で環境と風紀を改善する参考になる。私は学校で芸術クラブの会長をしている。今回日本の美術室を見学し、美術部の学生と交流することができた。彼らの授業や部活動組織を香港に持ち帰り、二つの優劣を合わせ、私たちの芸術クラブを新たに作り上げたい。今回の交流がなければ、他の国の学生がどのように活動しているのかを知ることはできなかった。

日本と中国の最大の違いは、文化の保護と尊重にあると思う。日本の多くの文化は中国から伝わってきたものだが、中国はそれらを保護し大切にすることを怠ったため、多くが失われてしまった。着物ショーを見て、私は着物の原型が中国の唐代の服装にあることを知った。裁断方法にも形状にも共通点があり、これは日本と中国の文化上の交差点だ。でも現在、日本には着物があるが中国の唐代の服装はなくなってしまっている。両地の文化の保護の違いだ。中国のために日本に学ぼう。最後に、最も深く印象に残ったのは日本家庭でのホームステイだ。ホストファミリーがとても親切でただだけでなく、濃厚な生活感をじっくり味わうことができた。寒い冬に一緒に集まって話し食事をする。香港のような生活リズムの速い場所では感じる事ができないものだ。私は、もっと沢山の時間を家庭で過ごし、家庭を大切にしたいと思った。これが、私の日本での見聞きした事と感想だ。

◆澳門団

○今回が初めての日本訪問だったが、見知らぬ外国に来たというような特別な感覚は全くなかった。私にとって日本は元々良く知っている国だったからかもしれない。例えば、日本の道路はとても清潔で、街にはごみ箱がなく、日本人は礼節を重んじ、非常に礼儀正しく、他人に迷惑をかけることを嫌う等々。これらすべてが、日本と私たちの文化の差であり、私たちが学び手本にする価値のあるところだ。

最も印象深かったのは、北広島町でホームステイをした時のことだ。初めは、このような辺鄙な山奥の農村地域は、東京などの大都市に比べ、関連施設は劣っているに違いないと思っていた。でも実際は、冬の気温が東京より低い以外、基本的に東京と何ら差はなく、私たちはもっと滞在していたい、離れたくないと思ったほどだ。家は都市部よりも広く、景色も、視界も、空気も都会よりよかった。そして最も重要なのは、消防署や病院、銭湯などの必要な施設がすべて揃っていたことだ。私が想像していたような「田舎」や「農村」とは全く違う、それはもう立派な町だった。中国の農村といえば、これこそ正真正銘の「農村」だ。日本と中国の国土面積を比べれば、日本の方がより多くの資源を辺鄙な地域の発展のために使える。でも、もし今後中国が資源か機会を得て、こうした地域の施設等を改善すれば、都市人口の一部を引き受けられるだけでなく、観光業の発展を促進することもでき、それによって地域経済を牽引し、互いに補い合うことができる。

○今回の訪日前、幸運にも日本の学生と交流できると、とても期待していた。最初の東京都立淵江高校では、日本の学生がとても温かく私たちをもてなしてくれた。体験の時も交流の時も、彼らは常に優しい笑顔を絶やさなかった。文化や言葉が違い、意思疎通が難しくても、日本の学生は全く気にせず、私たちに合わせてくれた。この数日で、日本の礼節に触れただけでなく、ホームステイ先では、互いに世話を焼き、理解し合い、彼らが本当に良い人たちだと分かった！！次の武田高校では、唯一丸一日、日本の学生になることができた。彼らの温かさが私の緊張をほぐしてくれた。私は、陸上部のクラブ活動に参加した。先生たちに連れられ、山を上り、山道を走り、ゲームをして遊んだ。澳門の練習とはずいぶん違っていた。彼らはチームワークを重んじていた。日本でのこの数日間、私は絶えず悟り学んでいた。

○東京の淵江高校では、その整った設備と、校内環境の清潔さ、学生の才能や技芸、熱意に驚き深い感動を覚えた。広島の武田高校では、日本の先進的な教育モデルや設備、世界レベルの授業カリキュラムを体験することができた。こうした経験をし、私は日本の教育制度の質の高さと完璧さを知った。また、東京の日本科学未来館では、日本の AI 技術が非常に成熟し、既に日常生活に入り込み、人類に役立つレベルにあることを知った。そして、岡田浩之教授のセミナーは、日本の AI 技術が既に世界のトップレベルにあるという事実を教えてくれた。

知識を増やし、視野を広げることができただけでなく、人として物事を行う面でも得たものが多かった。日本人の、物事を行う際の細やかさや態度が、私に深い印象を与え、自分の人としての在り方を変えたいという気持ちにさせた。日本人の物事を行う態度は今後も手本にしていく価値がある。

ホームステイ交流では、日本語と広東語によく似た発音の言葉が沢山あることを発見し、日本語に対する興味が湧いた。

日本は味わい深く、体験する価値が沢山あるところだ。私はまた日本に来るだろう。

○日本の学生は、学校のある地域によってずいぶん違う。東京の学生はとてもフレンドリーだったが、広島の学生ははにかみ屋が多かった。おそらく、東京は首都で、広島はやや辺鄙な地域である所以だろう。

中でも印象深かったのは、武田高校での交流の質問の時間だ。私が彼らに嫌な事は何かと尋ねる度に、彼らはずいぶん「嫌な事はない」と答えた。彼らは拒絶することが得意でなく、あまりやりたくない事でも、無理にでもやり遂げているのが見て取れた。

そして、私の思考を最も刺激したのは、「赤ちゃんロボット」のセミナーだった。講義では、赤ちゃんロボットとの相似点を取り上げられていた。この点に私は賛同する。そして彼らの学習速度が異なる原因は、受け取る情報量の差だと考える。例えば、一枚の紙に対して、赤ちゃんはそのサイズや色、触感、質感（柔らかい、固い等）を感じとることができるし、観察し学習することでその用途も知ることができる。でもロボットがこれらすべてを行おうとするのはとても難しい。

最後に、平和記念資料館のさまざまな種類の歴史記録に、感無量だった。世界が永遠に平和であることをより強く願った。

○今回が初めての日本訪問であり、初めての外国語を使っただけの交流だった。私の日本語はほんの基礎レベルだが、英語にも助けられ、日本の友人との交流はとても順調だった。今回の交流を通じて、

私は日本の礼儀文化と環境保護に対して深く感服し、日本語に対する興味も湧いた。帰国したら交流団の友人たちと、共に日本語を勉強し、二年生になったらまた一緒に日本に来て、ホストファミリーのお父さんとお母さんに会いに行こうと約束した。

学校では、嬉しく光栄なことに、日本の太鼓や茶道、家庭科、剣道等の授業を体験し、これらの授業について知ると共に、日本に対する理解も深まった。見学では、時間が短すぎて、すべてを見学しきれずに出発することが多かった。これは非常に残念だと思う。

今回の交流を通じて、日本と中国の異なる点と同じ点をまとめてみた。これらはすべて間接的に国の発展に影響を与える。例えば、日本人は礼儀文化を重んじ、他人に会えば挨拶をし、ところかまわずごみを捨てたりもしない等。中国人の多くが今はまだできていないことだ。私は中国人として、同胞が態度を改め、国を更に発展させ、強大にしていくことを望む。